（第三種郵便物認可） 総合 物流Weekly 2015年（平成27年）8月3日（月曜日） （16）

transtron

ユーザーの声を反映

トランストロン DTS-D1シリーズ発売

クラウド型デジタコ

トランストロンは3日、クラウド型デジタコの新機種「DTS-D1シリーズ」を発売した。

同社は2014年に、クラウド型デジタコ「DTS-C1」の販売を開始。その年後となる2015年10月には、ドラレコ搭載型の「DTS-C1-D」を発表し、現在までに、シリーズ累計で約6万台を販売している。

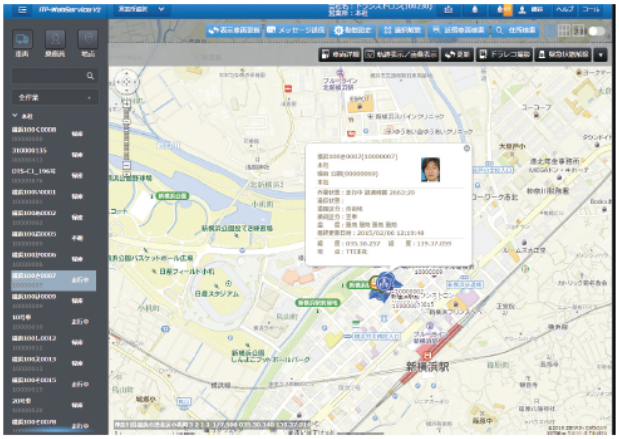
同社情報機器事業推進部の酒井健二課長は、「販売台数の約8割を『C1-D』が占めており、高度な運行管理を行いたいというユーザーに高く評価いただいている」と話す。また、「既にドラレコを導入されていたユーザーでも『一体型で一つのソフトで運用できる方が良い』と『C1-D』を導入頂くケースも多い」という同シリーズの特徴は、カードレス運用の実現に加え、動態把握や動画を含むドラレコ画像の送信など、機能追加や拡張の更新が自動で行われるのも、クラウドの強みと言える。

機能の充実ぶりについて同課長は、「追加料金をいただくことなく、どんどん進化させてきた」と胸を張る。また、「数十万円するソフトウェアを購入頂く必要がなく、1台から導入できるという手軽さも受け、保有台数10～30台規模のユーザーに特に好評」と説明する。

デジタコ本体、通信ネットワーク、クラウド、サポートに、全てを単一事業グループのサービスで構成。「問い合わせをいただいた時も、たらい回しになるようなことはない。グループとして高いレベルでサービスを提供できる」と自信を示す。ユーザーの声に耳を傾け、さまざまな意見を反映し開発したものが、今回発売となった「DTS-D1シリーズ」だ。

操作性と視認性を改良

前モデルからの改良点として、まず挙げられるのが「操作性と視認性」。有機EL画面は従来比1.5倍のサイズとした「ご高齢の方でも見やすく、使い勝手が大幅アップした「ITP-WebService_V2」のメイン画面



ドライバーが増えられている中で、簡単に操作できることも重要。画面に文字を大きく、ボタンの大きさを配置など、細かいレベルでも改良した」と同課長。

5つの操作ボタンは手袋をしていても押しやすく、テンキーも独立させた。「使用頻度の高いボタンはドライバー側に配置するなど細かく配慮している」。さらに、デジタコにおさすがけで認識する免許証リーダーを搭載。「運転者コード入力の手間を省き、期限切れも即座に気付くことができる」。

外部機器との連携

スマホ連携も実現。運転席から離れていても、Bluetoothを通じてスマホ上で操作できる。また、「荷積み」「荷下ろし」など、音声による認識も可能。ドラレコ搭載型の「DTS-D1」では収集データの領域向上に注力。高画質デジタルカメラを採用することで、「ナンバープレートもはっきり確認できる」鮮明な画像に。また、5カメラ接続が可能で、前方はデジタス、それ以外はアナログ、赤外線、ドーム、高圧洗浄対応など、用途に合わせてカメラを選択できる。

モバイルアルコールチェッカーとの連携や事務所でドライバーの音声通話を実現する音声通話オプションも活用可能。また、富士通の眠気検知システム「FujitsuVehicleIctPeelythm（フィーリズム）」やタイヤ空気圧チェッカーなど、外部機器との連携も徐々に拡大予定。さらに、同社の画像認識技術を活用した車線逸脱・車間距離の検知機能を追加している。

クラウド型運行支援サービス ITP-WebServiceV2 完全Web化を実現

クラウド型運行支援サービス「ITP-WebService V2」も新たに販売する。パソコンへのインストールが不要となり、「完全Web化」が実現。「URLからログイン画面へ飛べるので、どのパソコンでも使える。また、タブレット端末でも操作が可能。一気に利用範囲が広がる。」管理画面の使い勝手も大幅にアップしている。

また、前モデルまでのドラレコ動画の取得数は4秒・月間4回までだったが、新機種からは、イベント発生の前後15秒、計30秒のHD画質の動画が、ネットワークを通じて無制限に取得できるようになった。「いま、どこで、どの車両が何をしているのかというイベント情報がほぼリアルタイムに把握できることに加え、気になる車両があれば何度でも動画で確認でき、確実な現場把握と的確な指示につなげられる。」

取得した動画データは、1車両あたり最大50件までクラウド上に保存が可能。「対面点呼や安全運転指導に活用いただく際もアプリの抜き差しが不要となる」とし、「指導の際に、ただ『ふかうりアクセル』と言われても新人には伝わりにくいが、模範ドライバーの動画を見せれば一目瞭然。

なお、運行基本情報だけでなく、外部機器から取得した情報は、クラウドセンターで分析・加工し、ユーザーが活用しやすい形で提供する。「将来的には、血圧や健康診断のフォローアップと運行データを組み合わせるなど、新しい可能性も考えられる」という。

同課長は、「日々、運行管理をしっかり行いたいというユーザーに対し、機能を減らすことで、『ドライバーと運行管理者の皆さんが操作や運行データの活用を楽に行えること』を意識した」と、新製品のポイントを説明する。

費用は、「ITP-WebService V2」が月額1980円（税別、同サービスのドラレコ搭載型が同2690円（同）。前バージョンがそれぞれ2280円（同）、2660円（同）だったが、「国内については価格を下げたが、品質は一切下げていない。高い満足度を生かして、技術を進化させた上で価格を抑えた」。ドラレコ搭載型では30円アップとなったが、「機能を大幅に強化させており、十分に費用対効果を実感いただけるはず」。車載機の価格は前モデルからの変更はなく、「ドラレコなし」が22万9000円（同）「ドラレコあり+車載機+デジタルカメラセット」が27万9000円（同）。

情報機器事業推進部
田中 充部長

データ活用によるサポート

他社に先駆けてクラウド型の強みが受け、保有台数10～30台規模のユーザーに多くの支持をいただけたのが大きかった」と振り返る。

「機能は向上させつつ、価格はできるだけ抑える」という方針を掲げ、度重なる機能強化を行って販売を開始した同社。情報機器事業推進部の田中充部長は、「トラック業界全体に、良い意味で予想以上に受け入れられてきた。クラウド型デジタコ「DTS-C1」の販売を開始した同社。情報機器事業推進部の田中充部長は、「トラック業界全体に、良い意味で予想以上に受け入れられてきた。クラウド型の強みが受け、保有台数10～30台規模のユーザーに多くの支持をいただけたのが大きかった」と振り返る。

「機能は向上させつつ、価格はできるだけ抑える」という方針を掲げ、度重なる機能強化を行って